

母校だより

バレーボール部

- ◎春季大会 優勝
- ◎高校総体 優勝
- ◎新人大会 優勝
- ◎選抜大会 優勝

4年連続44回目

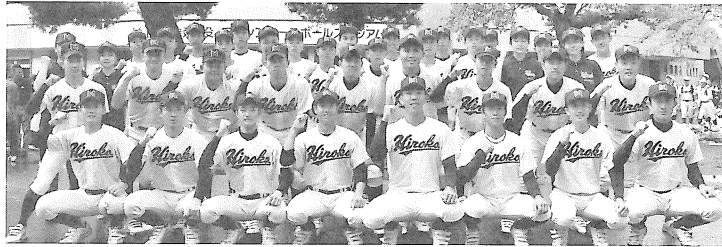


硬式野球部

- ◎全国選手権大会 青森大会
- 弘工対光星敗退

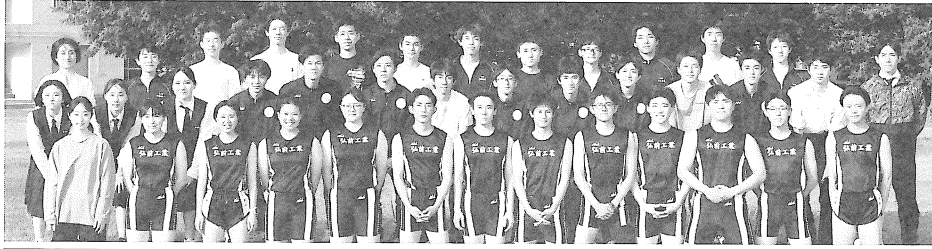
陸上競技部

- ◎春季大会
 - 女子砲丸投げ 第2位 東 優希
 - 女子円盤投げ 第2位 成田 彩歌
 - 男子走高跳び 第3位 長尾 侑磨
 - 女子砲丸投げ 第3位 東 優希
 - 女子円盤投げ 第3位 成田 彩歌
 - 女子砲丸投げ 第2位 成田 彩歌
 - 女子円盤投げ 第2位 成田 彩歌
 - 女子フィールド総合 第2位



- ◎新人大会
 - 男子走高跳び 第1位 長尾 侑磨
 - 第2位 葛西 岳臣
 - 男子フィールド総合 第2位

- ◎東北総体
 - 女子円盤投げ 第4位 成田 彩歌
 - 女子砲丸投げ (インターハイ) 第8位 東 優希
- ◎東北新人大会
 - 男子走高跳び 第6位 葛西 岳臣



軟式野球部



- ◎春季大会 優勝
- ◎高校総体 優勝
- ◎東北新人大会 ベスト4
- ◎秋季大会 優勝

バドミントン部



新体操部

- ◎春季大会
 - 男子学校対抗戦 第3位
 - ◎高校総体
 - 男子学校対抗戦 第3位
 - ◎新人大会
 - 男子団体戦 第3位



ボウリング部

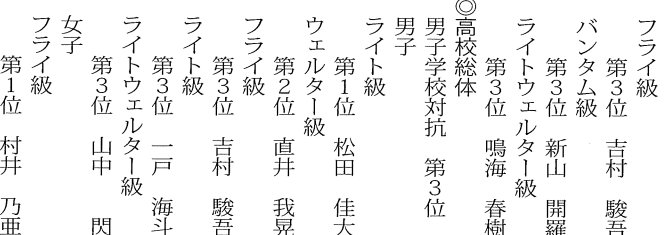
- ◎春季大会
 - 個人戦 第5位 石田康次郎
 - 2人チーム戦 第1位 石田康次郎
 - 学校対抗戦 第1位 高杉 鳳雅
 - ◎高校総体
 - 学校対抗戦 第1位 高杉 鳳雅
 - 学校対抗戦 第1位 高杉 鳳雅
 - 2人チーム戦 第1位 相馬 祥希
 - 個人戦 第1位 石田康次郎

ボクシング部



登山部

- ◎新人大会 学校対抗(男子) 第5位
- ◎文部科学大臣杯
 - 男子2人チーム戦 第1位 石田康次郎
 - 相馬 祥希
- ◎春季大会
 - 学校対抗 第3位
 - 男子1部
 - ライト級 第1位 松田 佳大
 - フライ級 第3位 吉村 駿吾
 - バンタム級 第3位 新山 開羅
 - ライトウェルター級 第3位 鳴海 春樹
 - ◎高校総体
 - 男子学校対抗 第3位
 - 男子
 - ライト級 第1位 松田 佳大
 - ウェルター級 第2位 直井 我見
 - フライ級 第3位 吉村 駿吾
 - ライト級 第3位 一戸 海斗
 - ライトウェルター級 第3位 山中 閃
 - 女子
 - フライ級 第1位 村井 乃亜



弓道部



- ◎東北大会
 - ライト級 第2位 松田 佳大
- ◎全国大会
 - ライト級 第3位 松田 佳大
- ◎国民体育大会
 - 少年男子
 - ライト級 第5位 松田 佳大
- ◎東北新人大会
 - 1部
 - ライト級
 - 第1位 松田 佳大
 - 第2位 一戸 海斗
 - ウェルター級
 - 第2位 直井 我見
 - ライトウェルター級
 - 第3位 鳴海 春樹
 - 女子の部
 - フライ級
 - 第2位 村井 乃亜
 - ミドル級
 - 第2位 成田 大河

柔道部

◎春季大会
女子団体
第3位
平川 真央
根岸 瑠璃
三上 紗和
太田 春
高田 花美

◎柔道部

◎春季大会
男子個人
73 kg級 第3位 成田 昊雅
90 kg級 第3位 相澤 光希
◎高校総体
90 kg級 第3位 相澤 光希
◎新人大会
90 kg級 第3位 相澤 光希
◎新人大会
第3位 小山内寛汰

テニス部

◎新人戦
男子団体 第3位
男子ダブルス 第3位
木村 風雅
杉澤 凜



吹奏楽部

◎青森県吹奏楽大会
高等学校小編成の部
銅賞



水泳部

◎高校総体
男子50m自由形
第4位 山下 海王

スキー部

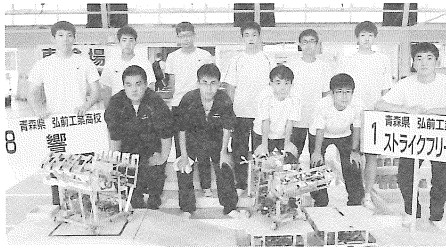
◎サマージャンプ大会
女子組 第7位 藤元 彩子
女子組 第8位 藤元 彩子

放送部

◎総合文化祭放送部門大会
ラジオドキュメント部門
「おじいちゃんは二刀流」
第1位

競技ロボット部

◎第31回全国大会福井大会
チーム響 出場



工業科

◎第14回国際イノベーション
コンテスト国内最終予選
第1位
◎第14回国際イノベーション
コンテスト世界大会
敢闘賞 澤口 瀧生
佐藤 風花
鈴木 遊雲
横山 遊雲

美術部

◎青森県高等学校総合文化祭
優秀賞 澤田 励也
優良賞 小山内 遊

「高校生ものづくり
コンテスト青森大会」

電子科

◎電子回路組立部門
第7位 江口 鉄馬

建築科

◎木材加工部門
第1位 吉田うらら

情報技術科

◎ロボットソフト組み込み
職種
敢闘賞 小山内朋幸
山下 悠誠

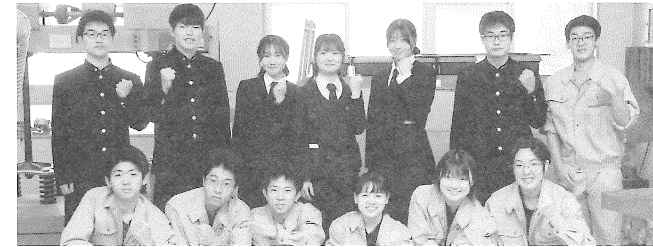
情報技術科

◎「18回若年者
ものづくり競技大会」

工業科

◎「インターネットワークシステ
ム管理職種
敢闘賞 島川晃太郎

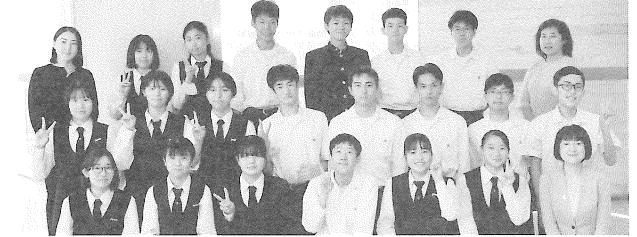
建築研究部



写真部

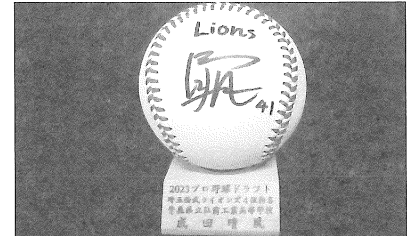


家庭クラブ



成田晴風選手
埼玉西武ライオンズ入団激励会

令和五年十二月二十五日、市内のホテルにて入団激励会が開催された。はじめに主催者を代表して実行委員長である佐々木秀美氏（硬式野球部OB会長）が開会の挨拶、その後、弘前市長、大鰐町長より来賓祝辞。校長からは成田選手の紹介が行われた。本人からは「早く一軍に上がって、弘前工業高校の名を背負いながら活躍し、世界の舞台でも戦えるような選手になりたい」と決意表明された。その後、ユニフォーム姿に着替え再登場。会場内からは歓声があがった。野澤武同窓会名誉会長による乾杯の御発声の後には宴に突入、壇上の選手もときには終始記念撮影の列が続いていた。
時間はあっという間に過ぎ終宴。最後に本人から約百三十名の出席者に記念サインボールが手渡され出席者を見送った。



東青支部

令和五年度東青支部の総会及び交流会は十月七日(土)午後六時から青森市「アラスカ」において来賓に吉澤同窓会会長、学校より北城校長先生、渉外部の五十嵐先生のご出席を賜り



令和五年度青森県立弘前工業高等学校同窓会東青支部

総会と交流会

東青支部会員二十八名の出席のもと開催されました。総会議事に先立ち、ご逝去されました方々に対し追悼の意を表して黙祷を捧げました。

来賓の吉澤同窓会会長の挨拶に続き、北城校長先生からはご挨拶の中で七月一日に弘前市で開催されました同窓会本部の活動状況や母校健児の学業、スポーツ等多方面にわたる活躍についてご報告をいただき有難うございました。

交流会では五十嵐先生から弘工健児の活動状況を映像により詳しく紹介していただき大変好評でした。交流会での余興として今回は青森県を拠点に活躍するローカルタレント横山ひできさんが漫談やマジックショウ、津軽三味線演奏やかすみさんによる歌謡ショウがあり大いに盛り上がり会員の親睦を深めることが出来ました。各支部とも共通課題である会員の高齢化と出席者数の減少にともない皆様に声掛けをしていきたいと思っております。また交流会開催にあたり協賛していただいた各企業様に感謝いたします。有難うございました。

令和六年一月一日の大震災で甚大な被害を受け

た石川県能登半島で被災された方々へ心からご冥福をお祈りいたします。

最後になりましたが、母校並びに同窓会の益々の隆盛と会員の皆様のご健康とご活躍を心から祈念申し上げます。(支部長 前田 進)

仙台支部

毎年、実施しております弘工高同窓会仙台支部の総会は新型コロナウイルスの感染予防のため令和二年度から令和四年度は開催しませんでした。役員会において令和五年度の総会の開催を決定したこと、令和三年度版の弘工高同窓会名簿が発刊されたことから改めて宮城県内の同窓会会員の見直しを行い、一四三名の会員に総会開催の案内を行いました。

その結果、返送と返信無しが六八名、今後の連絡不要三一名、死去四名、今後も同窓会の連絡が必要が三九名でした。令和五年度の総会は三九名中二名と同窓会会長吉澤俊寿、校長北城高広先生、渉外担当五十嵐治男先生の出席で令和六年一月二十四日(水)に仙台市内のハーネル仙台で開催することとしました。

総会の内容等につきましては次号の会報で報告したいと思っております。以上、仙台支部の近況について報告いたします。(仙台支部長 会津茂光)

北海道支部

支部総会を四年ぶりに開催しました。令和五年四月二六日に、本部の吉澤会長、北城校長、五十嵐事務局長が忙しい中、遠路はるばる駆けつけて下さり、久しぶりの支部総会を開催することが出来ました。

年当初は今年も開催が厳しいかと思いましたが「開催するべし」の声が多く開催を決定しました。しかし、参加予定の会員が支部総会直前に入院等体調不良が相次ぎ、少人数となりましたが、はるばる根室から参加の吉谷廣美さん(建築・S三一卒)や、初参加の小山善幸さん(土木・H六卒)の参加もあり総会を無事開催しました。

二次会は、日本の三大歓楽街のスキーで、ご来賓の皆様が活躍で逆に乗じて頂きました。ありがとうございました。また、令和五年に、三六年前に北海道でインターハイが開催され、支部として少人数ながら応援団を組織し、七月下旬から八月にかけてボクシング(ライト級松田佳大選手)、陸上女子円盤投げ(成田彩歌選手)、男子バレーの応援をさせて頂きました。

ボクシングは松田選手が堂々の三位入賞を果たし、連日応援で感動させて頂きました。女子円盤投げの成田選手は惜しくも決勝戦に進めず



板柳支部

板柳支部は、現在八十三名で活動を行っております。近年はコロナ禍での行動規制された環境での同窓会活動ではありましたが、ようやくコロナも収束をむかえ、令和五年度は四年ぶりに藤崎支部と合同総会・懇親会を令和六年二月二日(金)多目的ホール「あふる」において開催する予定となっております。

これまでは総会も開催できず会員の皆様との交流が難しい状況が続き、残念ながら心強かつた仲間のご逝去されましたが、一抹の不安を余所に会員の皆様には総会で元氣な顔を見せていただき、久々の再会で親睦を深めることができることを非常に楽しみにしております。

今後、支部の活動については若手理事をはじめ会員の皆様より活発な意見提言をいただきながら、組織の若返り化や連携を強化し、板柳支部の発展を図っていきたくと思っております。

今後とも、母校の益々の隆盛と同窓会会員の皆様のご健康とご活躍を心からご祈念申し上げます。(支部長 笹 光明)



同窓会理事

(〇)印常任理事

Table of board members including names, titles (e.g., 会長, 副会長), and their respective schools (e.g., 青森県立弘前工業高等学校).

Table of members with names and their school abbreviations (e.g., A, B, C, D, E).

Section titled '運営協力費' (Operating Assistance Fee) and '応募者芳名' (Applicant Names). Includes a message about the annual fee and a list of names.

Table of members categorized by their contribution level to the operating assistance fee (e.g., 二万円以上の協力者, 一万円の協力者).

Table of members categorized by their contribution level to the operating assistance fee (continued from the previous table).

Form for bank transfer information, including bank name (ゆうちょ銀行), account number (00170-2-107631), and branch name (青森県立弘前工業高等学校同窓会).

支部長名簿

Table of branch leaders (支部長) listing their names, addresses, and phone numbers across various regions (e.g., 関西, 東海, 東京).

運営協力費納入依頼趣意書 (Request for Operating Assistance Fee Payment). A letter explaining the purpose of the fee and requesting support from members.

会報についての連絡 (Contact regarding the newsletter). Information about the newsletter's publication schedule and how to provide feedback.

FROM 75
定時制

ありがとう！弘工高定時制 七十五年の歴史と共に

「やっと仕事が終わった
じゃ、さあ、学校さ行くべ」
自動車で、バイクで、自
転車で、そして歩いて通
い、大変な状況を乗り越え
卒業した生徒一五〇八名
今年度一名の最後の生徒の
卒業で本校定時制課程は閉
課程となり、七十五年もの
長い歴史に幕を下ろすこと
となる。少し歴史を振り
返ってみたい。

まず、本校全日制課程は
昭和二十三年四月青森県立
弘前工業学校から現在の青
森県立弘前工業高等学校と
改称し、スタートした。翌
月の五月、定時制課程は木
材工藝課程を設置し、生徒
五十名を募集する形で始ま
る。昭和二十五年四月には
電気課程を設置、翌昭和二
十六年四月には機械課程が
設置となり、長らく続く三
学科という体制が整う。昭
和二十八年から一時期、堀
越分校を設置し別科（家庭
科）及び機械課程を募集し
た経緯もあったが、昭和三十
五年三月、この堀越分校
は廃止となる。昭和三十八
年三月木材工藝課程を工藝



第1・第2合同卒業記念写真

科に、電気課程を電気科
に、機械課程を機械科に改
めた。昭和四十八年四月教
育課程の改訂に伴い、同年
入学生より工藝科をインテ
リア科と改める。そして、
昭和六十年四月、電気科に
専修コースを設置し、より
専門的な資格取得のニーズ
に対応した歴史もあった。
時は平成となり、定時制
課程の役割も少しずつ変化
する中、平成十二年四月、
学年制から単位制に移行。
また、平成十八年四月、機
械科、電気科、インテリア
科を統合して工業技術科の
一学科にするなど、生徒の
柔軟な学習機会の確保に対
応したが、少子化という時
代の大きな流れの中で、令
和三年四月、生徒の募集を
停止。令和六年三月、本校
定時制課程は閉課程とな
る。

七十五年という歴史を振
り返る事業の中で、定時制
課程卒業第一期生である、
大先輩（花田恒男さん）と
定時制最後の卒業生となる
（伊藤有）との奇跡の対談
が実現できた。対談の中で
花田さんは、二度する休み
をしたエピソードで笑いを
誘う中、「自分がいいと思っ
た事は辞めずに最後まで
やり続けること」との大き
なエールが感動を呼んでい
た。

ここで閉課程事業のロゴ
マークをデザインした伊藤
有君の思いを紹介する。
最後に、同窓会ならびに
後援会、これまで支援をい
ただいたすべての関係者の
皆様方に敬意を表すことも
に、改めて深く感謝申し上
げます。



奇跡の対談の様子



運動会 1982年（昭和57年）



校舎 1964年（昭和39年）
生徒会誌第4号掲載



遠足 1990年（平成2年）岩木山



定時制生徒会の旗



校舎 1977年（昭和52年） 生徒会誌第18号掲載



部活動 バレーボール県大会優勝
1990年（平成2年）



生徒生活体験発表会



校舎 2015年（平成27年） 生徒会誌第56号掲載

三戸義仁 駒井欣一 駒井明一 田中誠一 田村鉄男 田嶋鐵男 藤嶋勝義 山田淳一 小川淳一 高坂秀隆 相保喜久美 佐藤里司

令和五年二月から令和六
年二月までに逝去が判明し
た会員のご芳名です。
心からご冥福をお祈り申
上げます。

会員計報

建築科	A
木材工藝科	F
工藝科	T
インテリア科	I
機械科	M
土木科	C
電気科	E
電子技術科	B
情報技術科	D
電子機械科	S
定時制	定

（敬称略、数字は卒業年
Hは平成、その他は昭和）



遠足1992年（平成4年）十和田湖

進路状況について

今年度の進路活動状況は、コロナウイルス感染症の扱いが第五類に移行したこともあり、振り回されることは殆どなく、感染症が流行する前の状態に戻ったと思います。当然、企業や上級学校側も以前のように...

令和5年度 進路状況 () は女子内数

令和6年1月18日現在

Table with columns: 在籍数, 就職 (県内, 県外, 公務員, 大学, 短大), 進学 (職業能力開発施設, 専修学校各種学校). Rows include 206 (41), 希望者数, 内定・合格者数, etc.

都道府県別 [就職145名・進学61名]

[人数]

Table with columns: 県名 (青森県, 北海道, 岩手県, 宮城県, 山形県, 福島県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 石川県, 愛知県, 大阪府, 鳥取県). Rows include 就職, 進学, 合計.

状態では製造系や建設系を主に絶好調でありました。求人件数も二次募集を含むと約三千件ほどで、どの業種においても人材不足な状態が相対的に感じられています。企業に就くことができないことに大変恐縮していただきます。次に公務員組ですが、公務員志望者は生徒数の割合から多くはありませんが、昨年に比べ約二倍の生徒が国家・地方に合格しています。これも長い時間を掛け、根気強く努力した結果の賜物と思います。最後の進学組ですが、志望者の殆どが志望校に合格したことからも、こちらに関しても生徒の強い頑張りを感じられます。特に、国立公立志望者の頑張りには目を見張るものがあり八名の生徒が志望校に合格しています。結びにあたり、これらの結果はひとえに本校卒業の先輩方の努力が学校への評価に繋がりを生じてそれが現役生への評価に繋がっているものと思います。同窓会の皆様におかれましては、日頃のご支援やご指導、激励に深く感謝を申し上げます。今後はのびのびと活躍を祈念申し上げます。 進路指導部主任 藤田 宏

卒業生累計

(令和6年3月卒業生含む)

Table with columns: 課程, 旧制 (本科, 第2本科, 第2部, 選科, 専修科, 別科), 新制 (全日制, 定時制), 計 (男子, 女子). Rows include 木工, 漆工, 建築, インテリア, etc.

旧制 青森県立工業学校 (明治43年以降) 青森県立弘前工業学校 (昭和10年度以降)

学校からのお知らせ

卒業された皆さんへ 証明書の発行について

本校を卒業され、社会の一員として又は学生として各地で活躍されていることと思います。今後、各種試験の受験、免許、資格の取得の機会があると思います。その際必要となる証明書の発行の申請は、左記の要領で本校事務室の窓口にお出でになるか、事務室宛に郵送又は電話で申し込んでください。なお、FAX・メール等での申し込みは本人確認ができません。平成17年4月1日の個人情報保護法施行に伴い、手続きが変わりましたのでご注意ください。 Ⅱ手続き方法 左記の4点を事務室宛に一括して提出ください。不備がある場合は証明書の発行ができませんのでご注意ください。 1. 申し込み用紙 申し込みとして、メモ帳・便箋・レポート用紙等に次の項目を記入してください。様式は自由です。できれば、(本校ホームページ)「証明書」をダウンロードしご利用ください。 申込用紙のダウンロード: 「証明書」をダウンロードしご利用ください。 2. 卒業時の氏名 (英文の証明書を必要とする場合は、ローマ字表記の氏名も記入) 生年月日 卒業年月 卒業学科 必要な証明書の種類と枚数 使用目的 (○資格取得申請のため等、簡潔に) 郵便番号、住所、電話番号 (証明書の内容について問い合わせる場合があるので、勤務先等日中確実に連絡の取れる電話番号、携帯電話) *特に指定された証明用紙がある場合は、その用紙を同封してください。 3. 返信用封筒 (封筒は長形3号の定形サイズ。請求の場合は不要) 郵便番号、住所、氏名 (本人宛に限定) を明記し、切手を貼ったもの。 本人以外へ郵送を希望する場合は、左記「本人以外の申請又は受取りについて」をご覧ください。 証明書2枚以内: 84円切手貼付 証明書3枚以上: 94円切手貼付 速達を希望する場合は、さらに290円分の切手を加算してください。 4. 発行手数料は、証明書1通につき450円です。(会費収入証紙で納付) 5. 身分証明書 (運転免許証、健康保険証、パスポート等の公的なもの) 本人からの申請であることを確認するため、「身分証明書の写し」を持参又は同封してください。なお、提出いただいた写しは、法令による場合を除き、証明書発行に係る本人確認以外の目的には使用しません。 *本人以外の方が申請又は受け取りを行う場合については、親族の方も含む原則として「本人以外からの申請」及び「本人以外の受け取り」は受け付けできません。ただし、海外在住等やむを得ない場合には、代理人による申請を受け付けます。その際には、上記の4点に加え、下記のものを提出してください。 1. 本人自筆による署名捺印のある委任状 (様式自由) 2. 代理人の方の身分証明書の写し (証明書の種類) 現在、本校で発行している証明書は以下のものです。 ・卒業証明書 (和文・英文) ・成績証明書 (和文・英文) ・調査書 (進学用・就職用) ・単位修得証明書 右記以外の証明書を必要とする場合は、事前にお問い合わせください。 (発行に要する期間) 来校の場合 土・日・祝日を除く8:30から16:30まで。 郵送の場合 申請を受理後土・日・祝日を除く2日間程度。郵送に要する期間も必要となりますので、余裕をもって申込みください。 (申し込み・お問い合わせ先) 〒036-8585 弘前市大字馬屋町6の2 青森県立弘前工業高等学校 事務室 TEL0172-3216241

会員各位の皆様へ

青森県立弘前工業高等学校同窓会は株式会社サトラトへ名簿製作ならびに調査業務・発送業務を委託しております。その際、お預かりする個人情報保護に関する日本の法令その他の規範を遵守して有目的の範囲でのみ利用いたします。詳しくはホームページをご覧ください。